西条キャンパスで田植え

田植えの後で記念撮影

山中谷川に沿った一画に、廃棄田や廃棄林を蘇生した生態植物園がある。

この蘇生した田圃で、去る六月一日、原田学長や牟田理学部長も参加して「田植えの会」が行われ、古代米といわれる黒米の苗を手植えした。

田植えのあと、夏の花である卯の花の下で花見会を開催し、参加者全員で「夏は来ぬ」の歌を合唱して豊作を祈った。

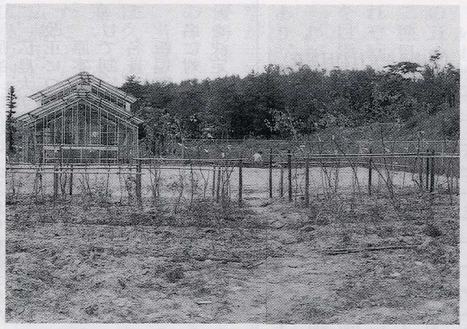
秋には附属幼稚園の園児らを迎え稲刈りを予定している。

コバノミツバツツジら約一八〇本を移植

西条キャンパスに放射光科学研究施設の設置が計画されようとしている。

この造成予定地には、広島市東部地域特有の貴重植物であるコバノミツバツツジ、ヤマツツジ、エゴノキが枯死寸前の状態で残存している。

そこで、理学部の豊原源太郎講師をはじめ中央廃液処理施設正藤英司助教授、理学部塩路恒生技官らは、六月六日から四日間でコバノミツバツツジ約三十本、ヤマツツジ約百本、エゴノキ数本を理学部植物管理室に移植し、蘇生・保護にあたることになった。


理学部植物管理室に移植されたコバノミツバツツジら

ターミナルサーバ公開

総合情報処理センターでは、五月一日より学内情報ネットワークシステムの利用促進を目的として、新しいターミルサーバ（Livingston 社製 PortMaster）が公開されている。

本ターミナルサーバは、西条地区および霞地区に設置されており、それぞれのサーバに高速モデム（二八・八KBPSまで対応、従来は九・六Kまで）が八回線ずつ接続され、より快適な利用環境が提供されている。

サービス内容は、

①ユーザエントリマシン（hws）へのログイン（無手順端末）

②パソコン等のHINETへのIP接続（PPP接続）

となっている。

①は、従来のターミナルサーバと同様の機能を果たすものだが、接続手順が多少異なっているので注意を要する。

一方、②は新規サービスで、パソコンをLANへ接続する場合と同様にIP接続する方法。これにより、パソコン上のメールツールを使ってメールの読み書きが可能となり、また、パソコン上の Mosaic 等が直接利用可能となる。

なお、本件に関する問い合わせは左記まで。

広島大学総合情報処理センター事務室
TEL 西条地区＝内線六二五四 または
〇八二四―二四―六二五四（直通）
FAX 〇八二四―二二―七〇四三
E―mail:
hinet―query@hiroshima―u.ac.jp

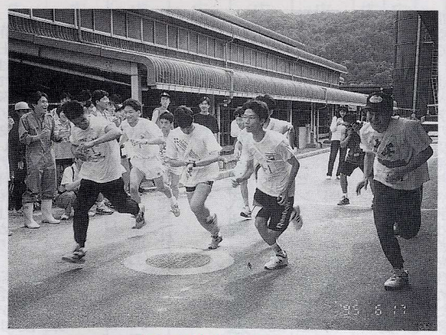
第八回農場駅伝、無事終わる

梅雨の晴れ間で真夏を思わせる陽気となった六月十七日、雨で延期となっていた恒例の生物生産学部附属農場駅伝が行われた。参加走者は、研究室やサークルなどから選ばれた十チーム七十人。農場は鏡山とがから山との斜面にあり、走路が起伏に富んでいるのが特徴となっている。

このアップ・ダウンを走ることは、十分に練習を積んだ選手にとっても苦しそうだったが、牛や馬たちも応援してくれている様子で、なかには水着や白衣を着てパフォーマンスで観衆を楽しませてくれる選手もおり、競争の中にも和やかな雰囲気で競技が行われた。幸い、倒れてしまう選手やケガ人はなく、無事に大会を終えることができた。先生方も多数参加し大健闘だった。暑い中、大会を盛り上げ成功させてくれたスタッフの皆様、ご苦労様でした。

次回の大会には、生物生産学部以外から多数の参加があることを期待しています。

農場駅伝実行委員会委員長
生物生産学部畜産系三年
鵜殿崇徳（うどの・たかのり）


応援を受ける選手たち

「七夕まつり」のお知らせ

このたび、大学祭実行委員会では、十一月に行われる第四十四回大学祭のための情宣企画として、七月八日(土)に「七夕まつり」を開催することになりました。

今回のこの「七夕まつり」は、十一月に大学祭が開催されることをにらみ、「学生生活の活性化」及び「地域内外の交流」を目指して企画したものです。

なぜ、この時期にこういったイベントを企画したかと言いますと、十一月の大学祭までに四月のオリキャン以外に全学が参加して楽しめるようなイベントがないということが一つ。また、積極的にこういったイベントに参加する学生が増えることによって、大学生活をもっと充実したものにしたいという、私ども大学祭実行委員会の願いの部分が一つ。そして、普段は講義などでしかお目にかかれない教官の方々と学生が交流を図ることにより、お互いが日頃見ることができない部分を認識し、学生の本分である勉学をより充実させたものにしていきたい、という三つの点において企画した次第です。

また当日は、中国五大学学生競技大会が本学を中心に行われることから、競技終了後の選手たちの憩いの場としても、この「七夕まつり」が使われることを、私どもは期待しております。

当日の企画概要としましては、総合科学部K棟周辺でD・Jブースを中心にさまざまな企画が行われ、そのまわりに学内サークルが数々の模擬店を店出しする予定です。また、当日は、我々大学祭実行委員会が趣向をこらした、いかにも「七夕」らしい装飾・演出を考えておりますので、ぜひご期待ください。

今年で統合移転も完了し、さらなる可能性を求めて広大は飛躍すべきであります。七月八日は、学生のほとんどが休みですが、会場までぜひ足を運んで学生の「可能性」をご覧いただき、十一月の大学祭を全員の力で成功させようではありませんか。

第四十四回広島大学大学祭実行委員会
委員長　小島健一（こじま・けんいち）

「大学改革に関する研修会」開かれる

講演中の常盤　豊氏

去る六月二十日(火)午後三時から二時間にわたり、教育学部大講義室で「大学改革に関する研修会」が開催され、本学の教職員約二百十名が参加し拝聴した。

講師は、文部省高等教育局大学課課長補佐　常盤　豊（ときわ・ゆたか）氏および広島県教育委員会教育長　寺脇　研（てらわき・けん）氏。

＊　＊　＊

本学の長年の懸案であった統合移転も完了し、真の総合大学を目指して、また平成九年度から多様な高等学校教育を受けた学生が入学してくることに対応するため、教養的教育をどうするのか、学部、大学院教育とどう連携していくのか、現在大学全体と各学部において各種改革委員会等を設置し、鋭意検討しているところである。

このような観点から、国立大学の教養部の改組転換により教養的教育がどのように行われ、どのような問題点があるか、また学部や大学院の教育研究がどのように連携され、特色を発揮されているかについて、全国の指導的立場から、常盤大学課課長補佐にご講演をいただいた。

さらに、平成六年度に行われた高等学校改革の内容と多様な学生が入学することになる平成九年度に向けて大学教育に何を望むかなどについて、文部省と教育委員会の重責を経験されている立場から、寺脇教育長にご講演をいただいた。

その講演の概要は次のとおりであるが、詳細については次号に載せることとする。

＊　＊　＊

☆常盤大学課課長補佐から、「大学改革の現状と課題」と題して、大学改革の進展、今後の課題、国立大学を取り巻く状況、いくつかの構想と施策、今後の方向について講演があった。特に、大学院の重点整備と教養教育改革に関しては、他大学の構想を紹介され、必要性、進め方等について助言があった。また、個人的な意見と前置きしながらも、今後の方向としてのキーワードは、「創造」、「総合」、「発信」であると述べられ、広島大学における改革の参考としてほしいとの要望があった。

☆寺脇教育長から、「高等学校改革の視点」と題して、平成六年度に行われた高等学校改革について講演があった。その主な改革は、特色ある教育課程の編成（カリキュラムの自由化、単位制の導入など）と新しい学科（総合学科など）の設置であり、特にどのような視点から行ったのか説明があった。さらに多様な学生が入学してくる平成九年度からの大学教育に何を望むかについて説明があり、入試方法に工夫してほしいとの要望もあった。

最後に、教育委員会としては、地球で活躍できる人材養成を目指しているとのことであった。

（庶務部庶務課）

講演中の寺脇　研氏

工学部安田、藤本両教授、歯学部新飯田助手、工学部玉井助手らが学会賞等を受賞

去る五月十八日、工学部安田　源（やすだ・はじめ）教授が日本希土類学会賞を、また、五月二十六日に歯学部新飯田俊平（にいだ・しゅんぺい）助手が「山下太郎学術研究奨励賞」を、六月十二日には工学部の玉井宏章（たまい・ひろゆき）助手が「前田工学賞」を、六月十四日に工学部藤本由紀夫教授が「海洋極地工学国際学会最優秀論文賞」をそれぞれ受賞した。